

会 議 録	
会 議 名	令和5年度 第1回 丸亀市未来を築く地域戦略会議
開催日時	令和5年10月2日（月）14：00～16：10
開催場所	丸亀市役所2階201・202会議室
出席者	<p>出席委員 西成 典久、岩倉 洋平、中村 優、高畑 響子、高木 和代、内海 珠美 東原 隆啓、佐藤 国夫、相原 しのぶ、佐久間 知恵、西川 真智子 高木 明美、秦 佳子、梶谷 孝啓、井上 達也、直井 馨子、向井 将寅</p> <p>欠席委員 三谷 幸代</p> <p>事務局 市長公室長 栗山 佳子 (秘書政策課) 課長 真鍋 裕章、政策マネジメント室長 宇野 大志郎 主任 大川 智 市民生活部 (生活環境課) 副主任 穴吹 優弥</p>
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1. デジタル田園都市国家構想交付金事業について 2. 第2期丸亀市未来を築く総合戦略アクションプランの進行管理について 3. その他
傍聴者	0名
発 言 者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>ただ今より、令和5年度第1回丸亀市未来を築く地域戦略会議を開会します。本日は大変お忙しいところご出席いただきありがとうございます。会長が選任されるまでの間、進行役を務めさせていただきます秘書政策課の真鍋と申します。どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>なお、本日の会議は、議事録作成支援システムを使用し、会議を記録しますので、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用し、発言するようにしてください。それではまず、皆さまに委嘱状を交付します。</p> <p style="text-align: center;">＜市長公室長より委嘱状の交付＞</p>
真鍋課長	ここで、市長公室長よりあいさつを申し上げます。
栗山市長公室長	＜市長公室長あいさつ＞
真鍋課長	<p>続きまして、各委員より一言ずつ自己紹介をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">＜各委員自己紹介＞</p>

真鍋課長	<p>次に、事務局の職員を紹介させていただきます。</p> <p><事務局職員紹介></p>
真鍋課長	<p>次に「会長及び副会長の選任について」丸亀市附属機関設置条例第6条において「附属機関に会長及び副会長を置き、それぞれ委員の互選により定める」と規定されていますが、いかがでしょうか。</p>
相原委員	<p>事務局の考えはありますか。</p>
真鍋課長	<p>事務局としましては、会長は西成委員、副会長は佐藤委員にお願いしたいと考えていますが、いかがでしょうか。</p> <p><異議なし></p>
真鍋課長	<p>西成委員、佐藤委員におかれましてはご了承いただけますか。</p> <p><了承></p>
真鍋課長	<p>それでは、西成会長、佐藤副会長は、会長席、副会長席に移動してください。</p> <p><席移動></p>
真鍋課長	<p>改めまして西成会長、佐藤副会長より、一言ずつあいさつをお願いします。</p> <p><原会長、佐藤副会長あいさつ></p>
真鍋課長	<p>ありがとうございました。それでは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づき、会長に議長をお願いします。</p>
西成会長	<p>それでは、会議を進めさせていただきます。本日の会議ですが、委員総数 18 名中 17 名の出席であり、過半数を満たしていますので、丸亀市附属機関設置条例の規定により会議は有効に成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>議事に入る前に、「丸亀市未来を築く地域戦略会議について」事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<p><資料に基づき説明></p>

西成会長	<p>本日の議事は、</p> <p>(1)デジタル田園都市国家構想交付金事業について</p> <p>(2)第2期丸亀市未来を築く総合戦略アクションプランの進行管理について</p> <p>(3)その他</p> <p>の3件です。まず、「(1) デジタル田園都市国家構想交付金事業について」事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<資料に基づき説明>
岩倉委員	本島の人口、本島着のフェリー乗客数、瀬戸内国際芸術祭期間中における本島への来島者数を教えてください。
穴吹	本島の人口は約250人、本島着のフェリー乗客数は約58,800人（令和3年10月～令和4年9月）、瀬戸内国際芸術祭期間中における本島への来島者数は19,120人（令和4年9月29日～11月6日）となっています。
相原委員	本島コミュニティセンター年間利用者数の県内外といった内訳は分かかりますか。
穴吹	区別せずに集計しているため分かりません。
梶谷委員	本島マイペースマラソンは、昨年度実施しましたか。 また、コミュニティセンターは、誰が管理していますか。
穴吹	昨年度の本島マイペースマラソンは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、本島コミュニティセンターにおいて、島内外の方が参加する運動会や島民が制作した作品を展示する文化祭を開催しました。 また、本島コミュニティセンターは、本島市民センターに配属された市職員が管理しています。
西成会長	<p>本島コミュニティセンターの建設にあたり、地域の実情に合わせた建物構造の検討や、地域住民の意見を踏まえた運営方法の決定といった検討プロセスを十分に踏めていないように感じました。地方創生を着実に推進するためにも、デジタル田園都市国家構想交付金を活用した取組などを検討する際には、外部有識者や地域住民の意見を求めるといった検討プロセスを踏みながら取組を進めるよう担当課へお伝えください。</p> <p>次に、「(2)第2期丸亀市未来を築く総合戦略アクションプランの進行管理について」事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<資料に基づき説明>

西成会長	基本目標1の取組でご意見はありますか。
佐藤副会長	結婚新生活支援事業補助金が婚姻率にどう影響したのか、また、その効果についてどう考えていますか。
大川	補助金が婚姻率にどう影響したか、正確に申し上げることは難しいですが、補助金受給者を対象にアンケートを実施しており、「本事業は、結婚へのきっかけの1つになったと思いますか」という質問があります。その回答結果から一定の効果があったと考えています。
東原委員	具体的な取組の進捗状況を評価するだけでなく、具体的な取組が成果目標に対して十分に寄与することができたのか、また、どう影響したのかなど、踏み込んだ検証をすることで、より実効性のある計画になると思います。
大川	具体的な取組が成果目標にどう影響したのかを分析し、その結果を成果目標ごとに示せるよう検討します。
西成会長	具体的な取組において計画と進行管理を示すだけでなく、評価に対する要因や今後の対策を担当課が考え、アクションプランで示せるよう様式変更も含めてご検討いただければと思います。 また、プライベートな情報に配慮しながらも、取組の成果を可能な限り数値で捉えていく努力が必要で、一概に大きな影響力があったと結論付けてもその規模が分かりにくい側面があります。
高木明美委員	まる育サポートの相談対応件数が令和3年度に前年度の2.5倍になっている背景には、専門相談員を半日常駐と体制強化したことのほか、コロナ禍で実施できなかった事業に従事すべきスタッフが相談業務に携わってくれたことがあります。そのため、今後も引き続き目標値の1,000件を達成できるかは、運営団体として不安な部分があり、担当課と協議する必要があると考えています。 また、まる育サポートには、健康課のハッピーサポート丸亀も含まれるため、その相談対応件数を加える必要があると思います。
大川	担当課にお伝えするとともに、ハッピーサポート丸亀の件数を確認します。
梶谷委員	異次元の少子化対策など、計画が始まった令和2年から国の方針が大きく変わっているため、取組やKPIなどを見直す必要があると思います。
大川	ご意見のとおり、現在の総合戦略はコロナ禍前に策定された計画のため、見直しが必要であると認識しています。そのため、令和6年度に控えている総合戦略の改定に

	<p>合わせて、現在の総合戦略の効果検証を行うとともに、国のデジタル田園都市国家構想を踏まえた取組やK P Iを設定したいと考えています。</p>
相原委員	<p>子育て世代の負担軽減のK P Iである 20～39 歳の社会増減数は、子育て世代に限定した数値でしょうか。</p>
大川	<p>属性を限定していない20～39歳の人数となります。</p>
相原委員	<p>新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和により、大きな社会減があったと理解しても良いですか。</p>
大川	<p>社会増減数は、このK P Iの具体的な取組として位置付けている給食無償化だけで判断することは少し難しく、新型コロナウイルス感染症による行動制限緩和が要因ではないかと総合的に考えたところ です。</p>
相原委員	<p>東原委員のご意見のとおり、具体的な効果検証をするためには、具体的な数値を示す必要があると改めて思いました。</p> <p>また、全体的な話で意見すると、例えば、人口ビジョンの目指すべき将来の方向において、転出抑制と転入促進が示されていますが、転入促進と比べ転出抑制の数値が見えてこない印象があります。転出が増えていることにも理由があり、その理由を突き詰めていくことが、西成会長のご意見にあった対策につながっていくのではないかと感じました。</p>
大川	<p>令和6年度の改定作業において、新しい視点も出てくると思いますので、新しい総合戦略に反映できるよう努めます。</p>
西成会長	<p>次に、基本目標2の取組でご意見はありますか。</p>
相原委員	<p>キッズウィークの取組について、計画には市内企業に周知案内とあるのに対し、状況・結果では学校への啓発に注力している印象を受けました。私が聞く限りの話にはなりますが、学校と比較し企業への周知が不十分であることから、休暇を取りにくい、子どもを預ける場所がないなど、学校が休みになることが逆に負担となり中途半端な取組になっているという意見があります。</p> <p>そこで、企業への周知をどのようにしているのか、また、次回以降何か有効な方法を考えているのか教えてください。</p>
大川	<p>キッズウィークの企業側への周知については、作成したポスターやチラシ、ホームページなどを通じて行っているところですが、周知が不十分であった点もあろうかと思 います。K P Iは休暇取得率をアンケート結果から算出していますが、令和4年度</p>

<p>宇野室長</p>	<p>に未実施であったアンケートを令和5年度に実施予定としておりますので、取得率の増減を確認しながら、企業への周知に力を入れるよう担当課にお伝えします。</p> <p>企業への周知は、主に商工会議所等を通して行っていますが、丸亀市民は市内だけではなく、市外でも働いていますので、ここ数年は近隣市町の経済団体にも働きかけるなど周知に努めているところです。</p> <p>また、キッズウィークを負担に感じている保護者への対応については、例えば小中学生が子どもだけで遊びに行けるようなイベントを企画するなど、工夫して取り組んでいるところです。</p>
<p>内海委員</p>	<p>インターンシップ事業について、令和3年度の内定者数が0人となっておりますが、インターンに参加した学生は最終的にどこへ就職しましたか。また、本取組は丸亀が大好きな子どもの育成の一環として取り組んでいることを踏まえ、就職はしなかった一方でインターンを通じて丸亀が好きになったのかなどを調査することで、次につながってくると思います。</p> <p>また、キッズウィークの休暇取得率における父母の割合は把握していますか。男性の育児休業の普及促進の意味合いも含まれる取組であることを踏まえ、育児のために休暇を取ったのかなど、少し深掘りしたアンケートをすることで取組が充実していくと思います。</p>
<p>大川</p>	<p>インターンシップに参加した学生の就職先については、事後のアンケート調査で把握しており、令和元年度実績と参考にはなりますが、中四国を中心に就職しています。</p> <p>キッズウィークの休暇取得率は、アンケート回答者を分母とし、1日・半日・時間外取得者で割り出した数値となりますが、父母の割合まで把握しているか確認できていません。担当課には少し深掘りした調査をするようご意見をお伝えします。</p> <p>男性の育児休業のご意見が出ましたので、取組を紹介させていただきます。市では、男性の育児休業取得促進奨励金に取り組んでおり、市内企業に勤める男性で、連続5日以上の子育て休業取った企業に対して10万円を補助しています。こうした補助金に加え、育児・介護休業法の改正により新設された産後パパ育休などの周知にも力を入れるよう担当課にお伝えさせていただきます。</p>
<p>西成委員</p>	<p>具体的な取組の効果などを調べようと思った際、市のホームページに掲載されているものですか。</p>
<p>大川</p>	<p>実績など公表できる数値については、市ホームページで掲載しています。</p>
<p>西成会長</p>	<p>具体的な取組の詳細が会議前に調べられるよう、市ホームページのリンク先をお知らせするほか、ホームページに掲載できない情報については、別途資料を配布するなど、より踏み込んだ議論ができる工夫を検討してください。</p>

高木和代委員	<p>県外の事例になりますが、キッズウィークのように休みを設定するのではなく、各家庭の事情に応じた休みを年間通して数日取れるようにするとともに、その休みを使った場合は学校を欠席扱いにしないといった取組をしています。丸亀市も事業者に優しい働き方改革を検討していただきたいです。</p>
宇野室長	<p>ご紹介いただいた事例は、休み方改革の一環として取り組んでいる事例の一つだと思います。取組を始めるためには、労働関係者の意識改革を高める必要があると思う一方で、各企業のルールに基づき休暇取得に取り組んでいる点を踏まえると難しい課題であると考えています。キッズウィークについても、家庭の時間を大切にすることを企業側に持っていただく意識改革の一環として取り組んでいることをご理解いただければと思います。</p>
西成会長	<p>観光分野では、オーバーツーリズムが課題となっており、一斉に休むのではなく分散して休む方向へシフトしており、高木和代委員のご意見のとおり、家庭の事情に応じた休暇を取得し、企業や学校がその休みに配慮する感覚が求められていると思います。キッズウィークの取組については、労働者側からすると休みにくい事情もありますので、キッズウィークの次の展開として、休み方改革の取組を検討していただきたいと思います。</p> <p>次に、基本目標3の取組でご意見はありますか。</p>
佐久間委員	<p>評価の基準について質問です。女子サッカーによるまちづくりの推進の評価が3年連続Dになっているのに対し、スポーツ合宿の誘致は2年連続Eから3年目でCとなっています。女子サッカーによるまちづくりの推進の計画や状況・結果を見るとコロナ禍でありながら、いろいろ工夫しながらサッカークリニックの開催回数を伸ばしているのにD評価を付けたのは、少し辛口な評価ではないかと思います。評価の理由も示されていないので、評価の仕方が気になりました。</p>
大川	<p>KPIの目標値に対する結果を評価するのが基本かと思います。担当課によって評価のばらつきはありますが、自己評価として受けとめていただきご意見をいただきたいと思います。</p>
佐久間委員	<p>企業の視点でいうとC・Dの評価は、予算達成をしたか、していないかの分かれ目になります。評価だけを見ると悪い印象を与えてしまうこともあるので、D評価にした理由や今後の対策を示すことで議論しやすくなると思います。</p>
西成会長	<p>次に、基本目標4の取組でご意見はありますか。</p>
高木明美委員	<p>子供の貧困対策の取組として、不正受給世帯に対する適切な措置をし、適正な支給を行うとありますが、例えば、社会福祉協議会のフードパントリーや子どもの居場所</p>

	<p>づくり事業といった取組も記載していただきたいと思いました。</p>
大川	<p>フードパントリーなどの前向きな取組も記載するよう担当課にお伝えします。</p>
中村委員	<p>コミュニティバスの時刻表について、少し使いづらい面があります。難しい問題ではありますが、使いやすいダイヤ改正に向けた取組はありますか。</p>
大川	<p>コミュニティバスの時刻表については、多様なニーズにすべて応えていくことが難しい状況ではありますが、行政評価委員会からもターゲットに合わせたダイヤ改正を検討するよう提言を受けています。中村委員のご意見やこうした提言なども踏まえながら、利用しやすいコミュニティバスのダイヤ改正について検討するよう担当課にお伝えさせていただきます。</p>
西成会長	<p>基本目標1～4を振り返ってご意見や感想などはありますか。</p>
高畑委員	<p>滞在型観光の推進の一環として、議事にあがっていた本島コミュニティセンターの利用者を増やす観光施策で、漁業体験などのアクティビティはPRしていますか。</p> <p>また、丸亀市の宿泊施設が不足しているため、他市町へ宿泊したという話を聞きます。他市町では、古い建物をリノベーションして宿泊施設にするような動きがありますが、宿泊場所を確保するための施策として、リノベーション費用を補助する取組はありますか。</p>
大川	<p>本島のアクティビティについては、生活環境課が運営しているホームページ「島旅ノート」や塩飽諸島を紹介するパンフレット「SHIWAKU ISLANDS」において、アクティビティを含む観光情報を発信するとともに、シティセールスなど様々な機会を捉えてPRしているところです。</p> <p>宿泊施設を確保するためのリノベーション補助金については、島しょ部限定となりますが、200万円を上限とする離島移住促進事業費補助金を実施しています。</p> <p>また、滞在型観光の推進に向けて、一般財団法人丸亀市観光協会の事業として、体験型観光メニュー造成支援事業を実施しており、令和4年度は、体験型観光ツアーを実施している旅行会社を支援しました。</p>
高畑委員	<p>現在丸亀市が進めている城泊事業が注目を集めており、城下町丸亀を活かした取組を進めることが、丸亀市への滞在時間の延長や宿泊につながると思います。</p>
西川委員	<p>インターンシップ事業について、今後イベント的に大きく開催する予定はありますか。また、採用内定数0名に対し、学生側においても県内外の企業の持つ魅力の違いなどをアンケートに盛り込んだ方が良くと思いました。</p>

大川	イベント的に大きく開催する予定はないと思います。アンケートのご意見は担当課にお伝えさせていただきます。
秦委員	空き店舗・空きオフィスの活用や離島のリノベーションなど、対象を民間事業者や移住者に限定するのではなく、市内在住者も対象に含めた補助制度を設立することで、増加傾向にある空き家の利活用が少しでも進み、県外流出を防げるのではないかと思います。
井上委員	ふるさと納税の上限見直しなど制度改正が行われていますが、担当課としてどのような対応を取っていますか。 次に、丸亀城の石垣復旧工事の状況を教えてください。 また、本会議の役割としては、来年度の予算編成に向けた提言をしていくという理解で良いですか。
大川	現在、ふるさと納税は業務委託をしており、委託先と協議しながら適切に対応しているところです。 石垣復旧工事については、崩落石が2倍近くに増えたことから、工事内容を見直し、竣工時期を令和10年3月末に延伸しました。 本会議は、井上委員お見込みのとおり、次年度の予算編成に向けてご意見をいただく場でもあります。そのため、忌憚のないご意見を引き続きいただきたいと思います。
直井委員	大学進学において通学か下宿で迷った友人がおり、コミュニティバスなどの公共交通機関が不便で通学が難しいことを理由に県外へ住んでしまうケースがありました。コミュニティバスのダイヤ改正や本数などを検討していただきたいと思いました。
向井委員	説明いただいた取組の情報が困っている人に本当に届いているのかが重要です。担当課がどのように情報発信を行っているのか少し気になるところです。
大川	市の広報紙やホームページ、各種SNSなど、様々な機会を捉えて情報発信しています。令和5年度においては、市公式LINEを始めましたので、有効に活用していきたいと思います。
中村委員	地元企業PR事業について、企業側の負担はあると思いますが、非常に良い取組と思いますので、引き続き注力して取り組んでいただきたいと思います。
東原委員	本島コミュニティセンターを活かすためには、テーマ性や特徴のある島づくりの施策を考え、センターを中心に取り組む必要があるほか、広域のまちづくりを進める中で本島をどう位置付けるかも重要であると思います。今後施策を検討するにあたっては、こうした考えも念頭に置きながら取り組んでいただきたいと思います。

西成会長	<p>本会議はどうしても評価の話になりますが、検討プロセスに外部有識者や専門家の意見を聴取していただきたいと思います。</p>
佐藤副会長	<p>人口減少が進む中で、自然増・社会増に転じることは大きな課題と考えており、今よりも少し深掘りした議論が必要ではないかと考えています。</p> <p>また、丸亀市には、コンパクトシティの実現や空き家の増加、商店街の活性化、高齢者の安心した生活の確保、企業誘致など様々な社会課題がありますので、こういった課題解決に向けた意見を提言に含めることで、安心して暮らせるまちづくりにつながっていくと思います。</p>
西成会長	<p>他にご意見もないようですので、最後に議事の「(3) その他」について事務局より何かありますか。</p>
大川	<p>令和6年度に第3期丸亀市未来を築く総合戦略の改定を予定しています。委員の皆さまには、引き続き忌憚のないご意見をいただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。</p>
西成会長	<p>他にないようですので、以上をもちまして、本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>